

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	北海道大学	整理番号	F01
プログラム名称	One Health に貢献する獣医科学グローバルリーダー育成プログラム		
プログラム責任者	新田 孝彦	プログラムコーディネーター	堀内 基広

(評価決定後公表)

(総括評価)

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラムについては、インターンシップ制度、学生と若手教員が企画・運営する国際シンポジウム、学生が企画・運営する Leading Seminar (学術講演会) など、制度作りがしっかりできており、グローバルな感覚を養うプログラムが確実に実施されていると判断できる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、インターンシップによる国際機関、海外研究機関などへの学生の派遣が確実に定着してきており、キャリアパスの開拓も目に見える形で進行していると判断できる。インターンシップ先の幅広さが、今後の学生の活躍を期待させる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、英語教育専門の外国人特任教員による英語能力に応じた少人数クラスでの実践的な英語教育や、学生1名につき3名のリサーチアドバイザーを配置するなど、きめ細やかな指導体制がとられている。一方、本プログラムは、博士(獣医学)取得を目指す学生に加え、人獣共通感染症対策専門家、ケミカルハザード対策専門家を目指す学生が参画しているが、シナジー効果を得るためにそれぞれ違うコースの学生間の交流をより活発化させることが望まれる。

優秀な学生の獲得については、本プログラムへの志望者は多く、他大学出身者や留学生も確保されている。単なる研究者だけではなく、グローバルリーダーを目指す学生が確実に増えており、より良いプログラムの形成につながっている。

世界に通用する確かな質保証システムについては、学位論文の審査基準を厳格化したことは評価できるが、多様なキャリアパスを目指す学生たちの個性を阻害しない配慮が望まれる。

事業の定着・発展については、支援期間終了後のプログラムの継続に向けて、3年間の自主財源を確保し、学内システムの整備もなされており、大学を挙げて本プログラムの成果を継続させる努力を惜しまないことが見て取れ期待できる。